

第5回 斐伊川水系河川整備アドバイザー会議 議事録（概要版）

日 時：令和3年11月1日（月） 10：00～12：00

場 所：松江テルサ 4F 大会議室

1. 開会

- ・アドバイザー会議が開会され、事務局が進行を行った。

2. あいさつ

- ・国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所の武内所長があいさつを行った。

3. 規約（案）について

- ・事務局より、規約（案）について説明され、委員の了承を得た。
- ・委員の互選により、杢見委員が委員長に選出された。

4. 斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】の進捗状況報告について

- ・事務局より、斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】の進捗状況が報告された。

5. 斐伊川直轄河川改修事業の事業再評価について

- ・事務局より、斐伊川直轄河川改修事業の事業再評価結果が説明され、本会議において今後の対応方針（原案）は「継続」は妥当と判断された。

6. 審議内容〈主な意見・質問〉

【斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】の進捗状況報告について】

＜施設の整備効果について＞

- ・（委員）今年度の出水において放水路及び尾原ダム・志津見ダムによる具体的な効果が示されたことはよかったと思う。効果の妥当性について当初計画の見込みとの比較はどうか。
- ・（事務局回答）個々の実績洪水に対して出水前に想定される水位低減量の算定は行っていないが、所定の操作規則に基づく施設操作によって下流河川のリスク低減が確認できたという点において、当初より期待していた施設効果が発現できていると認識している。

＜斐伊川放水路・神戸川の地盤沈下対策について＞

- ・（委員）今回の沈下対策だと民地側の沈下は減少するかもしれないが堤防本体の沈下は止まらない可能性がある。試験施工の結果次第だと思うが、河川側を連続地中壁にするなど、構造物で抑える必要があるかもしれない。
- ・（事務局回答）今回の沈下対策については、堤防整備に伴う堤内側の地盤沈下を解消することを目的としており、抜本的に堤防並びにその直下の地盤沈下を解消するものではない。

今後、委員の指摘も踏まえながら可能な限りきめ細やかに堤防高などの河道状況のモニタリングを行うとともに、必要な維持管理並びに対策の検討を実施していこうと考えている。

・(委員) 家屋にも損傷が認められたと記しているが、民家のことを指すのか。もしそうであれば、民家は優先的に対処しているのか。

・(事務局回答) 影響のあった周辺家屋については、個別に事業損失補償にて対応している。

<水防災社会再構築ビジョンの取り組みについて>

・(委員) 多機関連携型タイムラインについて、今年度の出水時、行政機関においては斐伊川タイムラインに沿った運用が概ねできたとのことによかったと思う。行政以外の機関の課題検証や参画機関が同時期に対応した他の水系も踏まえた検証も必要と考えられるので、振り返りを行う際には、それらを踏まえた検討をお願いしたい。

・(事務局回答) タイムラインの課題検証については、意見を踏まえながら他水系の状況も参考にしつつ検討していきたいと考えている。

<事業の進捗状況について>

・(委員) 整備計画の事業に対する進捗状況が全体としてわかるような示し方をしたい。

・(事務局回答) 個別の事業ごとに進捗率という形では整理しているが、全体のロードマップの中でどこまで進んでいるかということを、今後分かりやすく示せるように検討したい。

・(委員) 大橋川の改修について、拡幅と堤防の整備について記されているが、浚渫について現在のところどうなっているのか。浚渫は宍道湖の塩分濃度に大きく影響してくると思っている。

・(事務局回答) 浚渫については、基本方針に向けた対応として位置づけているところであり、段階的に整備を行う中で、まずは現行の河川整備計画が完了してから、実施内容の検討を行っていききたいと考えている。

・(委員) 斐伊川水系の治水事業は国・県・市三者が共同でやっている事業である。県や市の計画がしっかりと追いついているのか、整合性を持った形ですすめているのか。県や市との調整はどのように行っているのか。また、情報発信については、事業全体と進捗具合がわかるよう、工夫しながら進めて欲しい。

・(事務局回答) 県・市とは連携し事業を進めているところであるが、委員ご指摘の視点も踏まえ、県・市の周辺事業とのバランスも考えつつ進めて参りたい。情報発信については、地域全体がどのようによくなっていくのかについて、関係機関と連携しながらお示ししていきたいと考えている。

・(委員) 今年の出水におけるダム・放水路の操作によって松江市内の内水氾濫軽減に対してどの程度のプラスの効果があったのか等を市民に示すことができれば、本事業の有用性・効果がより広く伝わるのではないかと思います。

・(委員) 事業の進捗状況と効果について情報発信のあり方に課題があると感じている。事業全体を市民にしっかり理解してもらうための情報戦略・情報発信について検討してほしい。

・(事務局回答) 新聞の折り込みやホームページでの情報発信は行っているが、今後、より幅広く広報していきたいと考えている。

<ダムの維持管理について>

・(委員) フラッシュ放流による石に付着している藻類の剥離は厳しいと考える。効果が期待できるものなのか、今後検討してほしい。

<流域治水について>

・(委員) 斐伊川に関して流域治水プロジェクトについては、どこで策定しているのか。同プロジェクトのとりまとめについては、いつ公表されるのか。

・(事務局回答) 斐伊川水系流域治水協議会で策定している。協議会のメンバーは、国・県・市並びに農林水産関連の行政機関が入っている。令和3年3月に策定しており、さらに内容を拡充させるために、今年度为目标に検討を進めているところである。

<河川環境の整備と保全（大橋川の埋蔵文化財保護について）>

・(委員) 朝酌・矢田遺跡について、非常に重要な遺跡であるため、これらの歴史的文化財にしっかり配慮した堤防整備をお願いしたい。また、白潟地区で現在調査を行っているところではあるが、調査結果をしっかりと活かした堤防整備を行ってほしい。

・(事務局回答) 埋蔵文化財センターや島根県と一緒に、埋蔵文化財調査をしており、その結果、地元の意向等も踏まえながら、県と調整しながら堤防整備を行っていききたい。

<かわまちづくりについて>

・(委員) 木次は、川砂鉄の採取や、川港として機能していたという歴史的背景があるため、そのような歴史的な背景を考慮した整備を行っていただきたい。歴史的背景等に関する案内板等をいれてもらうなど、地域の特色を生かした整備をしていただきたいと思っている。

・(事務局回答) 年中通して人がたくさん来てもらえるような整備を目指している。春は、桜が満開になって人がたくさん来るが、それ以外の時でも人が訪れるような整備を進めていきたいと考えている。

＜戦略的河道管理：河床低下について＞

・（委員） 寄り州掘削などの河床低下対策を実施されていることは承知したが、河床低下により農業用水の取水等に非常に大きな影響がでることを心配している。今後とも対応をお願いしたい。

＜気候変動について＞

・（委員） 河川の維持管理計画では、気候変動をどのように考慮していくのか。
・（事務局回答） 気候変動を考慮した治水計画については、維持管理に限らず、改修事業も含めて、まずは気候変動の影響がどれだけあるのかを分析したうえで、検討を進めていきたいと考えている。

＜進捗点検のまとめ【事務局案】＞

・（委員） 進捗点検のまとめとして、本会議においては事務局案どおり了解する。

【斐伊川直轄河川改修事業の事業再評価について】

＜事業再評価のコスト縮減について＞

・（委員） 地域住民と協力して、積極的にコスト縮減に取り組んでほしい。

＜貨幣換算が困難な効果等による評価＞

・（委員） 斐伊川区間と大橋川区間では浸水形態も異なり避難率に相当な差がでるはずであるから、この辺りを踏まえた算定方法を検討していただくと、事業の効果としての説得力が増すと思う。

＜事業の効果について＞

・（委員） 流域内の産業生産額が上昇してきていることは、治水事業の進捗により地域の水害に対する防災ポテンシャルが高まっていることを示している。治水面における住民の安全安心だけでなく、経済面での安全安心にもつながってくるため、行政間が連携して、企業の誘致等を積極的に行ってほしい。

＜今後の対応方針（原案）＞

・（委員） 今後の対応方針（原案）は、本会議として、「継続」は妥当と判断する。

以上